診療局：呼吸器外科

＜スタッフ紹介＞

役　　職	スタッフ名
部長兼呼吸器センター長	土井　貴司
副部長	山中　秀樹(8月退職)

＜特色と概要＞

当科は呼吸器外科学会専門医制度による認定修練施設である。対象疾患は肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、血胸、膿胸、胸水貯留、胸部外傷などになる。

＜実績＞

【外来診療】

外来診療日は水曜と木曜の午前午後であった。2023年度の外来診療実績は、外来延べ患者数は1,856人、1日平均7.6人であった。このほか救急外来で気胸や胸水貯留に対して胸腔ドレーン挿入を臨時で10人に行った。

【入院診療】

入院病床の当科定数は9月より8階海側病棟3床から5床に増やした。入院診療実績は、延べ入院患者数は1,770人、1日平均4.8人であった。また他科症例の肺瘻や胸水貯留などに共観で対応した。

【手術】

手術室での呼吸器外科の予定手術枠は、火曜日の1日枠であった。手術件数は86件で、大阪大学附属病院呼吸器外科の応援のもと、主には完全胸腔鏡下手術を実施した。肺癌手術症例は生検を含めると38人だった。

【気管支鏡検査】

泉南新家クリニックの吉野谷清和先生の協力をえて、気管支鏡検査63件を施行した。肺癌疑い症例に対して超音波観測装置を用いながらEBUS-GS法で生検を25件行った。このほか臨時で吸痰や気道観察を行った。

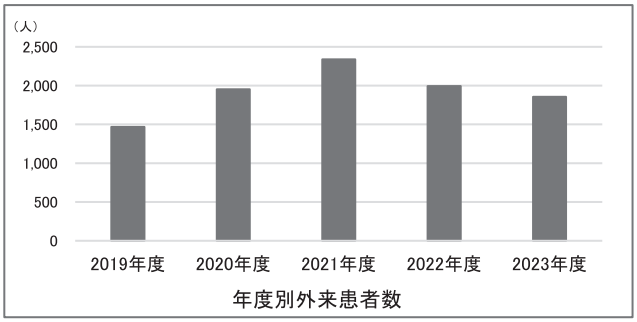
【化学療法、放射線療法】

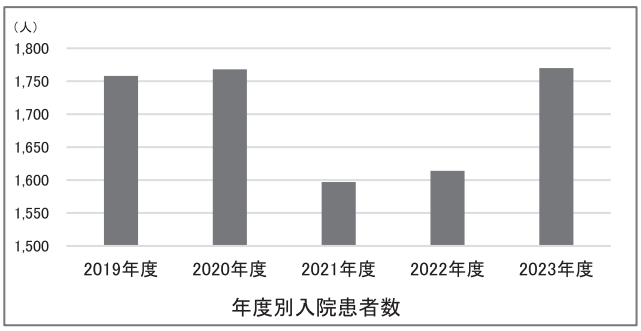
術後およびその再発症例、切除不能症例に対してマルチ遺伝子検査とPD-L1検査を21人に行い、新規に12人に対して化学療法を導入した。1コース目は入院、2コース目からは外来化学療法室で行った。

放射線治療センターにて化学放射線療法3人や放射線単独療法4人のほか、他院でSBRTを3人に施行した。

【緩和ケア】

当院には緩和ケア病床がなく、患者サポートセンターを介して近隣の医療機関へ繋げたが、緊急性がある場合には入院加療で4人に対応した。





2023年度の診療実績　(件)

外科療法	計　86
肺癌	29
転移性肺腫瘍	9
縦隔腫瘍	2
気胸	22
膿胸	9
そのほか（肺癌生検）	15(9)
薬物療法	計　12
複合免疫療法	5
免疫療法	1
抗癌剤	1
分子標的薬	4
そのほか	1
放射線療法	計　10
化学放射線療法	3
放射線療法単独(SBRT)	7(3)
緩和ケア	4
気管支鏡検査	63

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

マンパワー不足で、時に地域からの紹介を断らざるを得ないこともあった。来年度からは1名増員となるため、極力全例の受け入れを目指し、当院が地域における呼吸器診療の中心的役割を担えるように努める。また常に診療の質の向上を心掛け、近年のゲノム医療や新規の医療機器を取り入れて、標準以上の治療を提供する。

呼吸器センターの一翼を担っているため、肺炎や呼吸不全などで受け入れ先に難渋している症例に対しても対応する。